

弥生時代の青銅武器の鑄型をセットで発見！！

いがた
「鑄型」ってなにピヨ？



たまごちゃん

おおきな石ピヨ！
これは何に使うものピヨ？



高畑遺跡出土の銅戈の鑄型

があこ先生



「鑄型」は、金属を溶かし入れる型のことです。

今回見つかったのは、「戈」という武器の形をした青銅器を作るための鑄型2点です。「石英長石斑岩」という石材に、戈の型が彫り込まれていて、2つを鏡合わせにして、青銅を流し入れます。

青銅武器は、縄などで縛った2つの鑄型の注ぎ口から青銅を流し入れ、冷やし固めて取り出し、砥石などで磨き上げれば完成です。今回の発掘調査では、青銅を溶かして型に流し入れるときに使う「取瓶・坩堝」と考えられる容器も見つかっています。



たいやき的なことピヨ

2点セットの鑄型ですが、実は、両面そろって発見されたのは、今回が全国初！なぜセットで見つからないのか、理由はさまざま考えられますが、セットとして使われなくなったあとに、砥石として使ったり、他の鑄型に作り替えられたりして、別の場所に持って行ってしまうケースが多いようです。鑄型に使われている石自体が貴重な石材である、ということも関係しているかもしれません。



高畑遺跡出土の
取瓶・坩堝

今回、鑄型がセットで、しかも、取瓶・坩堝もいっしょに出土しているため、この近くに青銅器の工房があったと考えられます。高畑遺跡の南、春日丘陵一帯は、弥生時代の「奴国」の中心地で、青銅器生産が盛んに行われていました。今回の発見は、「奴国」の実態解明につながる貴重な資料となりそうです。